あなたの声を町政に

一般質問

1問1答方式で行いました。 **質問時間は1人30分です**

肥育用牛舎

問 和牛の里再構築の具体策は

答 積極的に維持拡大を図る

横尾正文議員

Q このままでは繁殖の目標数を大きく下回ると思われるが、具体策は。
①使用されていない牛舎を、所有者の理解を得て低価で提供出来ないか。
②30頭以上の農家の育成のためには機械化などによる省力化が必要だが具体策は。

A 町長
このままでは大幅な頭数減がさけられないので積極的な政策によって維持拡大を図っていきたい。また30頭規模の農家を育てることを主眼としている。和牛の里を利用して頭数増を図りたい。また個々の農家へは町の助成を奨励したい。牛舎の斡旋は本年度は、集落農業法人として「ビレッジホーム光末」において和牛飼育を開始している。それ以外については、今後検討する。

Q 融資については、旧東城町で成功例がある。本町でも積極的に取組むべきでは。

A 産業課長
積極的に応援していきたい。

A 産業課長
認定農家に対して無利子の「スーパーL資金」がある。
牛舎の斡旋については県の畜産担当者と協議中である。

問 自治振興会の活性化を

答 研修会など取り組む

橋本輝久議員

Q 活発な活動するためには「個人」から「共同」の意識改革が必要である。また、リーダ及び人材の育成支援が求められるのでは。

A 町長
まさにそのとおりであり意識改革が必要であると考えている。自治振興会の研修を始めており、担当課による適切なアドバイスを行う。

Q 公民館と自治振興会との関わり及び支所の役割は。

A 教育長
支所・公民館・自治振興会との連携をとっているが地域課題の取りくみが遅れている。公民館と自治振興会の役割分担を明確にしたい。
現在、仮称「町民センター」構想を細部にわたり検討中である。
早期にとりまとめたい。

Q 地域公共交通の再編計画は、住民の声を十分に反映しているのか。

A 町長
ベストな計画（案）だと思っている。1～2年試行し見直しも考えている。
路線バスの乗車率を上げ、赤字補填をなくしたい。

A 企画課長
住民の声を大切にし、公共交通協議会を通して見直しを図る。

Q 学校再配置計画について地域との協議の計画は。

都市との交流（有木地域）

A 教育長
教育効果を最優先にした方向性をもっている。
豊松地区では、「豊松の教育を考える会」を窓口に協議をすすめる。

問 CATV事業、やる気があるのか

答 ないことはない

小川清治議員

Q 町執行部はこの事業はやる気がないのにアンケート調査していると言う声を聞く。基本的にやる気があるのかないのか。

A 町長
やる気がないことはない。

Q アンケート調査をする前に職員全員に対して、事業構築に向けて研修し、町民から聞かれても十分な説明が出来るよう努めるべきだ。

説明会は自治振興会任せではなく、職員自ら説明し、欠席者へも訪問説明した後にアンケート調査するべきだ。
今回のやり方だと、ADSL整備時のアンケート調査同様精度にかける調査結果になる。町の未来を左右する重大事業に対する取組みとは思えない。
間違いのない判断を願う。

A 企画課長
アンケート調査の結果、賛成が50％を超え、町長判断で事業実施になれば、詳細な説明会を実施し、加入促進を図る。

Q 消防団の定員は改選期で退団者が69人、新入団員27人の予定と聞く。
新年度定員割れとなるのではないか。団員確保と消防団の充実発展への予算措置をすべきだ。

A 総務課長
指摘通り定員割れとなる見込みである。
新入団員候補者全員に入団依頼を行ったが、全体数が限られているので定員割れとなった。

消防大会

問 ハートプラスマークの啓発を

答 提案に沿って検討する

寄定秀幸議員

Q 内部障がい者に対する理解の輪を広げるための啓発を行い「ハートプラスマーク」の周知徹底を行っていただきたい。

A 町長
心臓、腎臓、膀胱、直腸、呼吸器、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の6種類の障害を内部障害という。
内部障害者の方の生活に役立つよう提案に沿って検討したい。

Q 公共の施設や、集客施設などへ「オストメイト」対応トイレの設置をすべきでは。

A 町長
膀胱および直腸の機能障害で多くの方が悩まれ、困っておられる。少しでも役に立つよう検討して参りたい。

Q 大矢の産廃業者に対し「大気汚染防止法」に基づき厳正な対応はできないのか。

A 町長
環境汚染・大気汚染は大変であると認識している。県に対して、規制を促すよう一歩踏み込んだ取り組みをする。

Q 町を挙げて「読書感想文コンクール」を実施してはどうか。

A 教育長
来年度「読書感想文コンクール」実施に向けて検討する。

Q ブックスタートへ具体的にどう取り組むのか。

A 教育長
町内読み聞かせの団体との連携により、幼児を対象にした健康診断や会合などでブックスタートの普及を図りたい。

AED講習

オストメイトマーク

オストメイト対応トイレは、神石高原町内には1カ所、「道の駅三和182ステーション」にあります。

ハートプラスマークのハートは、体の内部を表し、プラスとは、内部障がい者への思いやりをプラスするとの意味です。